いわき民報
平市田町四丁目八番地　電話三番
編輯兼發行人　巳之輝千
印刷人
日刊　但月曜を除く
定價一ヶ月廿円一部七十錢
發行所　いわき民報社

新住宅地として 籠倉岬の埋立實現か

新春早々江名濱の大計畫

江名町では故小名濱町長小野曹平氏の計畫により磯前海岸二万坪の埋立をなし、住宅地に工場敷地の緩和をはかるとゝもに要に江の浦二万坪の埋立繁利も小野氏の嗣子義一郎氏から讓渡され目下着工中だが、町の現狀からみるとこれでもなおかつ不足で現に住宅難になやむものが五百戸もある始末なので最近中ノ作籠倉岬の埋立が計畫されるに至つた。全岬は磐南臨海鐵道の鳴通のあかつきも永崎部落から有名なはぞ石海岸傳いに中ノ作に出る要衝でこの岬を切崩し埋立れば六千坪が住宅地となり、更に切崩しあと三千余坪も住宅地となり得て、結局一万坪出來るので町ではこの新年會の席上で出れた計畫案を急遽に具体化することとなり期待されている

公安委員長に山崎氏

三委員の各任期も決る

市の初公安委員顔合せ會は二大會に經過報告並に今後の斗爭方針を決定することとなつた

日本水素小名工場勞組は去る二十四日基本賃金三千二百円ベース（現行二千八百円）への引上げ他に結婚資金、退職手當問題等の要求を提出、二十六日團体交渉を行つた、會側は要求案まるのみでは百萬円となるのでその半額五十万円を認めたが勞組側はこの問題は一時保留として別個に結婚資金案として一ヶ年勤續者には三千円、三年以上勤續者には六千円條件として再婚の場合にも確認、職場結婚の際には片方のみに支給せよと會側に迫つたが會側は一ヶ年勤務者以上三年未滿の者には一千円三年以上の場合には三千円、なおその外祝金として六百円を支給、職場婚姻の際には相方に支給するとの回答に勞組側は不滿として二十八日來再度交渉を開始した、一方退職資金問題は二十九日團体交渉を開始、三十一日の勞組

小名濱水素 値上要求

團体交渉折合ず

勞委會側に遂に提訴

全私鐵連要求を會社側に蹴らる

小名濱臨港鐵道勞組（組合長鈴木重藏氏）では舊冬十五日危機突破資金及び基本賃金値上げ、結婚資金支給、退職手當等の四項目の要求案を提出したところ會社側は基本賃金値上げは危機突破の形で支給する條件で全面的に受諾したものゝ、その後全國私鐵連合から賃金のスライド制實施と同時に六月にさかのぼり支給せよとの要求を全國各社一齊に要求することになつたので全十八日再度會社側に要求した。これに對し會社側はこの再要求には應じ兼ねる回答して來たので交渉は決裂勞組側はついに地方勞働委員會に二十九日提訴した

幼兒たちに肌着配給

きょうから一週間

國へ年三才から七才迄の幼兒にメリヤス肌着が配給されられ二十九日から一週間以内で、値段は八十三円二十錢、九十四円三十錢、百二十三円五十錢、百四十円三十錢の四種、綜合通帳と印鑑持參で登錄店舗へ

勞組と懇談

きのう經復辭部來平

經濟復興會議生產復興運動本部國行委員長高野實、同宣傳部長岡田宗治、宮原同經營診斷部長三氏は二十八日來平午前十一時より內郷幾野記念館で常磐地方炭鑛勞組辭部三十數名と生產復興運動展開に就て種々懇談、勞働者の增產に奴身する實情を親しく聞き滿

高校は實業學校へ

小名濱の教育委員會開く

小名濱町教育委員會は二十九日午後一時より町役場にて部會、新制中學校を中心として第二學校、第二中學校、高等學校等何れも新築又は增築の聲が大きく取りあげられている上に暫定措置として高等學校の基本校舍を何れに置くかが重大問題で注目されているが町當局としては左の如き內意を以て結論に裏付けせんとする意向である

暫定措置

一、第二中學校は大体大原部落內に一万坪選定する方針

二、第二小學校の增築案は目下第一校庭にある武道場（三學級）を移築して應急措置策をとる

三、高等學校は農業學校を暫定的高校として發足せしめ義務教育機關たる小學中學の整備が成つてから本格的に本格化する

下駄の跡が運のつき

平署衣類泥のスピード檢擧

駅するとゝもに增產途上のいわゆる隘路については極力中央に於ても關係當局と折衝した

その打開に積極的に當る旨を答えこ時過ぎ有意義に散會した

二十八日午前十時頃泉野村大字上荒川字堀ノ內農業澤田官蘭さん方で納戸の窓筒から衣類二十點、時價一萬五千円相當を盜まれた、平署で調べると長人口の窓下の下の地面に犯人のらしい下駄の跡を發見早速小名濱方面に向いて足取り傳つて追跡して行くうち途中通行人から有力な聞き込みを得た結果遂に同日夕四時頃犯人が鹿島村大字走熊字中島某理髮店で折良く散髮中を狩刑事がスピード檢擧した、犯人は草野村大字泉崎字花輪

二月上映の名畫

春のめざめ

郷　第二イワキ
內

無職根本邦弘（二三）で去る十八日市ない鎌岡農業有坂トミョさん（三三）方からも衣類十數點を盜んだことも自供している

湯本町の孤兒調査

湯本町でも來る一日午前零時を期し戰災孤兒一齊調

募

急

製罐工・旋盤工　若干名
タモツ鐵工所
湯本驛通電一二六

區長助役兩氏着任

湯本石川間の省營トラック運轉も愈々實施となり、二十七日區長橋本金造氏、助役愛川鶴治氏が着任した

いわき放言

◇市の公安委員の任期迄る若い者服に定めたところなかなか良し

◇若いものゝ力をそゝだけ認めて來たということそれ自体が一進歩

◇非戰災者への課稅、アヂコチで目を白黑、戰災ぶとりにはサテどうしたものか

開業

神經科一般

精神科・內科

新田目醫院
新田目五郎
平市才槌小路（電一五番）

勞働組合員諸君に安慰の會

スクリーンから拔け出た

喜劇王 杉狂兒 實演
一行實に三十余名

勞働大衆慰安のために
撮影休暇を利用特に來演

一期日　二月一日　アサ十時　ヒル一時　ヨル六時　繁夜三回
一場所　平第三小學校講堂
一入場料　勞働組合員及その家族　大人二十五円、小人一五円
◇一般の來場も大歡迎

主催　東北地方文化協會
賛助　風戸興行社文藝部
提供

明治二十一年八月一日（第三種郵便物認可）　昭和二十三年一月三十日　いわき民報　（金曜日）　第五百二十八號

福島縣の古俳壇（1）

雫石太郎

序

本縣の古俳壇を探究することは誤に多難なことであり、大それた事ではあるが、昨夏以來蒐集中の材料も大体中通り置津方面を除いてまとまったので、本紙をかりて略述した い。

俳人の研究想主雖なものはない。それに本名を記さないことと數多の俳號を有して居るからである。數多くの俳書に句集に全一人の句が散見するが、俳號が頗々のもありうるからしだ話からあちこちの材料から拾ひ集めた句と俳號を對照してまとめたものである。鄉土研究に志して以來十年余になる。最初磐城の醫沾についての知識を得たいと思っているうち、磐城の古俳壇から

第一、元祿期　奥羽俳階の祖

内藤風虎

江戸の文學を大きく分けて二期にする。一は元祿期で一は化政期である前者は大阪を中心とし後者は江戸を中心とする。

我が鄉土磐城に文學の發生したのはこの時代で、それは平藩の藤風虎及びその子醫沾の力が大いにあづかってる。風虎は單に磐城に江戸の文學を移した功績者のみならず、奥羽に俳諧を移した第一人者である。奥羽の俳諧は風虎を以

本縣の古俳壇に及んだ。大方諸賢の御批判を乞うつもりで發表する。切に御指導を乞うものである。

て嚆かくとする。風虎とは平城主内藤義泰の俳號で風雅研紫軒紫硯又は白藤子とも稱した。内藤氏の略系を示せば次の通りになるが、平在城六代百二十六年間磐城の文化に貢獻した功績は相當のものである。風虎醫沾沾城と二代相續いた俳人であるが單に俳人のみならず荒地開拓に神社佛閣の復興に數學の研究に水利事業にとそれぞれ貢獻している

内藤氏略系

初代　藤家長
一代　政良、平城七七萬石元和八年平に移る
三代　忠興
四代　忠興
五代　領長、はじめ英樹、後義泰に作る號風虎
六代　義孝
七代　義稠
八代　政醇　義英の長男
九代　義英　早中號醫沾
義邦
義孝

九代より十六代まで略す。當主十六代政道（宮内省式部官）

風虎は寛文十年平城主となつたが、それ以前より大坂加番の父の留守のため在城した。風雅を好み俳諧に遊び西山宗因と風交をよくした。又和歌を好み自詠の歌集、在京大夫集がある。之は明治年間宮内省版として刊行されたそうであるが、まだみていないのが殘念である。きよう土の風物を詠じたものが多いということである。

現在流布されている俳書に風虎の名の出ているものは次の通りである

一、時勢粧　寛文五年刊
一、續山之井　仝　七年刊
一、後之中山　萬治三年刊
一、住後之中山　寛文四年刊
一、洗濯物　仝　九年刊
一、一本草　仝　六年刊
一、櫻川　仝十二年刊
一、信太の浮島　刊年不詳
一、夜の錦　延寶四年
一、蓼波草　寛文十一年
一、時世粧　仝　十二年
一、晴小袖　仝　年
一、大井川　延寶一年
一、糸屑　仝　二年
一、常世男　仝　四年
一、武藏野　仝　年

貞享三年五月廿九日沒　六十七　法名は　華嶮院殿風山大居士、墓は鎌倉光明寺

風山樣として双葉郡大久村常木原に祀られている。

風虎は友名として平民文學に親しんだのみならず、その寛裕から俳書を出版し、多數の俳士を保護し、子の醫沾への よき指導者として亦理解者として、奥羽俳諧の組である點存在である

第二、醫沾時代

内藤氏略系

初代　藤家長
一代　政良、平城七七萬石元和八年平に移る
三代　忠興
四代　忠興
五代　領長、はじめ英樹、後義泰に作る號風虎
六代　義孝
七代　義稠
八代　政醇　義英の長男
九代　義英　早中號醫沾
義邦
義孝

風虎の名の出ているものは次の通りである

一、時勢粧　寛文五年刊
一、續山之井　仝　七年刊
一、後之中山　萬治三年刊
一、住後之中山　寛文四年刊
一、洗濯物　仝　九年刊
一、一本草　仝　六年刊

話するからと内金五百円を受取り數日後同家に來て品物が郡山に來ているから取りに行くのだと稱した上郡山から速達で現金千円要求送らせてまんまとまき上げたほか栃木、群馬、東京の知人宅を訪問しては巧みに饗應を受けた上金品を詐取していた事發覺この程平署へ御用

幼兒バスに轢かれ即死

平署から嚴重注意

二十六日午前十時頃市内五丁目角附近で新川町日屠業赤津つる さん三男秀男ちゃん（三つ）は友達三名と道路上で遊戯中、江名方面から疾走して來たバス（滝轉手鈴木正一さん（二九））の後車に頭部を轢かれて即死、なお平署では子供の道路遊びは危險であるばかりでなく改正交通取締りに基き處罰されるから子を持つ親御さん達は注意されたいとうながしている

四月一日から主要日用品に切符制

小賣店選擇には業者は反對

皮グツ、ゴムクツ地下足袋、ローソク、マッチ、石鹸、和洋傘、眞空管、電球、教育ノート、タイヤ及びチューブ、サッカリン品にズルチンの主要日用品十品目はいよ〳〵四月一日から切符制が實施されることになったが、このほかナベ、カマ、鑑針等も考慮されている配給方法は衣料切符同樣消費者に配給切符を、小賣店及び卸商には公認切符を交付、物資は製造業者から卸問屋、小賣店を經て一般消費者にわたされることになる、ただ小賣店の指定は衣料品の場合同樣消費者の選擇制によることについては業者から猛反對が出ているのでなお研究中で決っていない

福島賓火災義捐金募集

縣島寺の災害義捐募金は二十九日實施中丈生徒二十一名の自主的な出に街頭の人達に呼びかけた結果午後一時から二千八百四十二円廿四錢の成績をあげた

精工舍の時計
常盤屋時計店
平一（電三三九）

古本專門の親切な書店
平市新川町
鎌屋文庫

盜んで貢く
困った接待婦さん
茨城縣西茨城郡南山内村佐藤照子（二二）―假名―は去月はじめ四倉町仲町料理店川村フクさん方に住み込み中情夫にみつぐため家人の際を狙って帳場の簞笥から前後三回に亘り衣類六點、五千七百五十円相當を盜み、同町古物商に六千五百円で賣却、更に本月六日午前十一時頃同町新町旅人宿松本コウさん方から木綿數布一枚をかすめその足で午後二時頃同所雜貨商吉田トキさん方の正面柱に掛けて置いたクローム製腕時計をも盜んだこと發覺、この程平署へ檢擧

神經病科開院

新田目醫院地方的に期待

平市才槌小路（第一校寄り口）新田目五郎氏が神經科という地方では珍らしい看板を掲げてない科を兼ね醫院を開業した、神經系統でも精神科に關するものは從來仙台、郡山方面へ診療を求めている現狀にあり、新田目醫院の開業は地方民にとっての福音である

新田目醫師は故新田目善次郎縣議士の長男で本年卅四歲で岩手醫學を出てから東北帝大醫學部精神學教室に講師として在任十年に亘り研さんを積み精神科で一家を爲し此間研究論文が通過し醫博の學位をとっている

なお精神科系統には梅毒性神經病、腦梅や初老ユウウツ症神經性ヒステリー、リュウマチ、神經痛など廣範圍に亘っている

切に親く安く早く

立仕服供子人
繕修造改服
婦洋

洋裁店
（三）
電話向陽界世　平市白銀町

詐欺漢御用
赤井村大字高萩ブローカー小島安吉（四〇）は一昨年十一月中旬頃川前村大字川前字中菅詐賣業齋藤久榮さん方を訪れ雜談中地下足袋十足、自轉車タイヤチューブ各四本を世

貸席と喫茶
宴會に御商談に
感じの好い當店を
ぜひ御利用下さいませ
浴場の設備有
小名浜町沖見（電三七番）
食堂　大
（又）

平市五丁目
（又）
釜屋商店
電九・九九

急募　増産に春を寿ぐ

開店披露

製材。製函。建具。物産
大進産業株式會社
支店長　鄉内清兵衛
平市彌宜町三八電一〇一〇番
舊神中組跡
製材工、運轉手
建具工數名